

福沢翁に献ず

烏兔茫々を顧みれば
紅顔弱冠よりこの白頭に至るまで
我が求むるは濁世の黄白青錢に非ず
何ぞ求めん巷の名利
あに冀ん俗世の栄達
唯に歩むは古賢の道にして
西の聖典に智の源泉を尋ね
東の漢籍に仁知の始源を探る
炎熱に額を拭い酷寒に手を擦り
究めゆく数理の奥義
辿りゆく論理の深山
我が余命は幾何にてもあれ
安んぞ止めん窮理の歩
机上より目を転ずれば知らず玄冬は過ぎ
庭梅の淡き綻に今ぞ春鶯訪ひ來る
寒に凜たる紅梅の香に憩ひ
妙なる清澄の囀りに心休らふ
学は日々新たにして
草木春秋また新たななり